

都独自英語教材「Welcome to Tokyo」について

ねらい

- ▶ 日本・東京の文化、歴史等の理解の促進
- ▶ 英語によるコミュニケーション能力の伸長
- ▶ オリンピック・パラリンピックに向けた国際理解教育の推進

教材の特長

- ▶ 東京及び日本の伝統・文化等について理解を深め、英語を用いて発信
- ▶ 様々な言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成
- ▶ 映像等を通して外国人とのコミュニケーションの場面を体験的に学ぶ

制作物と配布先

Elementary (初級編)

英検5級程度
本冊72ページ
(付属DVD168分)
小学校5・6年生

Intermediate (発展編)

英検準2～準1級程度
本冊102ページ
(付属DVD185分)
高校生

内容と構成

●内 容 (東京都62区市町村の特色を掲載)	武道(柔道・剣道・相撲) 伝統工芸(江戸小紋) 伝統芸能(落語、能楽堂、歌舞伎座) 年中行事(祭、花見)等
●伝統文化	食文化(給食、弁当) 交通機関(バス、鉄道システム) アニメバリアフリー等
●生活文化	自然(高尾山、小笠原諸島) 観光名所(東京スカイツリー) 東京の水 災害対策(地震対策、消防団)等
●自然・地域	町工場 人型ロボット エコカー エコシステム ハイテク家電等
●科学技術	東京の歴史 江戸から東京へ 歴史的建造物等
●構 成	●構 成 ▶ 本 文 「読む」「聞く」ための素材 ▶ アクティビティ 「書く」「話す」ことを中心とした言語活動 ▶ プロジェクト 調べ学習に基づく発表等の課題解決学習 ▶ コ ラ ム 本文のトピックやオリンピック等に関連する情報

授業等における活用

- 小学校外国語活動、中学・高校英語授業における活用方法
- ▶ 教科書の題材に関連する内容を取り上げ、言語活動を行なう
- ▶ 教科書で扱う文法事項等に關連付けて言語活動を行う

多様な場面における活用例

- 校外学習の機会を利用し、アクティビティ(インタビュー活動等)を行う
- ▶ グループワーク(調べ学習)の成果を、総合的な学習時間で発表する
- ▶ オリンピック・パラリンピック学習としても活用できる

東京グローバル10

【設置目的等】

- 外国語による高いコミュニケーション能力、異文化への理解や適応能力、国際貢献への意欲を育て、将来、国際社会の様々な分野・組織で活躍できるグローバル・リーダーを育成する。
- 平成27年度より10校を指定（日比谷・深川・西・国際・飛鳥・千早・小平・小石川中等・三鷹中等・立川国際中等）

グローバル・リーダーの育成に向け、以下の三つの視点を基に各校で事業を展開

平成27年度の状況 (各校の取組例)

国際理解教育の充実

- ・海外大学での研修実施
- ・新た姉妹校提携の検討
- ・海外研修、海外修学旅行での交流
- ・プログラムの改善

グローバル・リーダーの育成

- ・国際的な課題等に関する講演会の実施
- ・海外大学希望者への校内支援強化
- ・多言語指導の充実
- ・次世代リーダー・GYCへの積極参加

- ・JET・ALTを活用したITの活性化
- ・教員の海外派遣研修への積極参加
- ・外部検定試験を活用した生徒の英語力の分析

多くの生徒個々が実際に会話をする
機会・時間の更なる確保の必要性

ニーズの高まる海外大学進学に向け、
スケールメリットを活かした情報収集・
支援の展開の必要性

平成28年度の 支援内容

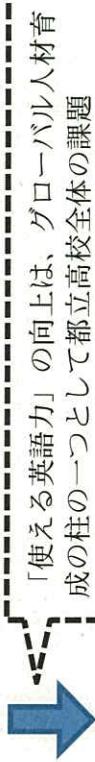
- 生徒の英語力判定調査（外部検定試験含）費用
- 教員向けオンライン英会話研修
- 各校の取組に必要な経費
- 生徒対象のオンライン英会話研修
- 音声・Reading PCソフトによる学習
- 海外大学進学支援（大学の情報収集等）

英語教育推進校の指定について

設置背景・目的

都立高校で広く「使える英語力を育成

- 現在、トップ層のグローバル人材育成を目指す都立高校 10 校を、「東京グローバル 10」として指定し、事業を展開



- 「使える英語力」の向上は、グローバル人材育成の柱の一つとして都立高校全体の課題
- トップ層を更に伸ばす取組と並行して、広く都立高校生を対象に「使える英語力の育成」を進めいく必要がある。

具体的な取組

英語教育推進校 40 校を指定（3 年間指定） ⇒ きめ細かい指導を可能にし、生徒個々の英語力を伸長

【対象】

進学指導重点校等 24 校、中高一貫教育校 7 校、単位制高校等 13 校等を対象に選定（オンライン英会話実施校：現 G 10 校を除き、進学指導重点校 5 校及び中高一貫校 7 校の計 12 校）
江北、青山、竹早、白鷗、上野、三田、晴海総合、大田桜台、両国、墨田川、城東、小岩、富士、荻窪、調布北、狛江
小山台、駒場、目黒、新宿、文京、戸山、大泉、町田、八王子東、松が谷、日野台、翔陽、立川、昭和、国立、武蔵、武蔵野北、
小金井北、保谷、多摩科学技術、国分寺、桜修館中等、南多摩中等

【内容】

「聞く」「話す」に重点を置いたきめ細かい指導を実施

【具体的な事業】

- ①生徒を対象としたオンライン英会話の実施（※40 校中 12 校のみ実施）
- ②生徒の英語力判定調査費用
- ③音声・Reading PC ソフトによる学習
- ④教員のオンライン英会話研修（※40 校中 12 校のみ実施）

これまでの取組と課題

JET、ALT の配置拡大により、生徒が英語に接する機会は確実に増加しており、4 技能の総合的な育成への効果は大きい。
しかし、クラス全体（40 名）を対象とする指導となるため、個々の生徒の英語力強化に向けては以下の課題となる。

- ・生徒一人が実際に会話をを行う時間が限定期
- ・生徒個々の 4 技能の英語力を測定する機会の不足
- ・教員の英語力の不足

英語教育推進地域事業の概要

＜趣旨＞ 小学校英語教科化を踏まえ、区市町村教育委員会における取組を支援することにより、都内全公立小学校における英語教育の充実に資する。

＜取組内容＞

(1) 英語教育推進地域（10 地域）の取組

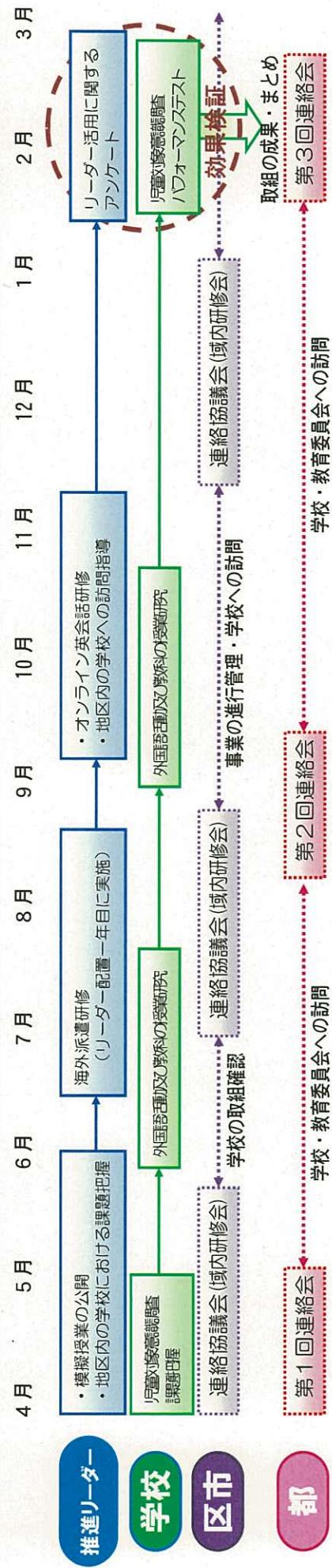
- ALT の拡大配置及び効果的な活用に関する研究 日野市
- 外部人材の効果的な活用による研究 羽村市
- ・地域支援員の活用 あきる野市
- ・外部人材活用ハンドブックの作成 世田谷区
- 「効果的な指導を行つたためのガイドライン」の作成 福生市
- 「CAN-DO リスト（学習到達目標）の作成の手引き」の作成 及びカリキュラム開発（音声ペンの活用含む） 目黒区
- 3・4 学年を対象とした絵本を活用したカリキュラム開発（玉川大学との連携）町田市
- ICT の効果的な活用に関する研究 東村山市
- モジュール型授業のための教材開発及びインターネットを使った海外の学校との交流授業 荒川区
- パフォーマンステスト（スピーキングテスト）の作成 西東京市

※上記の取組を地域間で共有する。

(2) 英語教育推進リーダー（38 名）の取組

- 自身及び勤務校のための取組
- 地区内の学校のための取組
- 地区内の全小学校（複数り一ダード）配置の地区（は担当校）への訪問指導
- 区市町村教育委員会が主催する研修会の講義及び演習
- 都から発信する国等の最新情報の各校英語教育推進担当教員への周知（メーリングリストの活用含む。）
- 業務の公開
- ALT 等外部人材との連携
- 教材の電子化・共有
- 海外研修及び英会話研修等

※ リーダーが配置されている区市町村教育委員会は、上記の取組が円滑に行われるよう各種会の企画・運営・進行管理を行う。



【期待される成果と発信】

- 平成30年度小学校英語教科化の確実な先行実施
- 児童の4技能（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）の向上
- 教員の英語力及び授業力の向上